

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	婦人科腫瘍のゲノム異常を理解し、標準的な婦人科腫瘍の診療に加え、遺伝性乳がん卵巣がんのような、遺伝的に発生する婦人科癌に対しても、家族も含めたカウンセリングや、適切な薬剤選択ができる医師を養成する。さらに、キナーゼ阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など、新規治療薬の動向について理解し、みずから臨床試験を立案して治療法を開発できる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	研究指導科目24単位と大学院教育コース6単位を取得すること。かつ、医学研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 がん治療認定医を取得すること。						
履修科目等	<必修>[教育コース]腫瘍学コース、ゲノム・オミックス統計解析学、医工情報学連携コース 6単位 [遺伝カウンセリング] 臨床遺伝専門医取得に必要な遺伝カウンセリング、あるいはロールプレイ実習 [学術集会の出席] 日本人類遺伝学会学術集会 2回、日本婦人科腫瘍学会学術集会 3回 [学術業績] ・筆頭者として婦人科腫瘍に関する研究発表（論文 1編を含む）を2件 ・臨床遺伝に関する論文2編、あるいは論文1編および学会発表2件 [チーム医療教育] 婦人科カンファレンス						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	京都大学婦人科学産科学教室は、これまで独自に、婦人科腫瘍のゲノム異常の解析を通じて、薬物療法や免疫療法のバイオマーカー探索を行い、婦人科腫瘍の個別化医療の開発を行ってきた。本コースでは、婦人科腫瘍におけるゲノム異常の深い理解を通じて、標準的な診療に加え、新規治療法を開発できる医師を育成する。						
指導体制	京都大学婦人科学産科学教室において、婦人科腫瘍のゲノム解析に基づく個別化医療の開発は主要テーマであり、同テーマを専門とする教授、講師、助教が、がんプロ学生のメンターとなり指導を行う。 京都大学医学部附属病院は、下記の認定施設となっており、がん治療認定医、臨床遺伝専門医、婦人科腫瘍専門医取得のための研修が可能である。 ・がん治療認定医機構認定研修施設、・臨床遺伝専門医認定研修施設 ・婦人科腫瘍指定修練施設						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了までに、がん治療認定医を取得し、その後、婦人科腫瘍専門医取得および臨床遺伝専門医を目指す。そして、婦人科腫瘍を多く取り扱う施設に勤務し、婦人科腫瘍指導医になることを目指す。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 大学院生	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5